

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

関前一丁目
付近にて

no.70



この作品は、境浄水場の南側にある側道で、西を見ながら描いたものである。写生中に車が数台通っただけで、人が通らなかったのは、最近では珍しい場所だと思う。

浄水場の近くということもあり、飲み水について考えてみた。私はこれまで、スケッチ旅行などで多くの国々を訪問しているが、飲み水に関しては、日本は最高に素晴らしい国だと思っている。飲み水が安心して飲め、飲食店でも無料で出される国は、海外ではほとんどない。外国の地下水はカルシウムなどを含んだ硬水のため、そのまま飲むことができず、炭酸を含んだガス入りの飲料水が多い。かつて、ドイツのライン川沿いの町のレストランで水を頼んだ時、ビールの値段より高かった。また、ウズベキスタンでは、飲料水に注意していたにもかかわらず、腹を壊したことがあった。それ以来、改めて日本の飲料水の素晴らしさを、再確認した次第である。

(絵と文…大須賀一雄)

Profile

大須賀一雄
(おおすか かずお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。